

グループワークという形で、ふだんは関わることのない多大学の学生や研修医の方々とじっくり2日間話す機会があり、とても有意義だった。(6年生)

様々は人との交流ができ、有意義だった。
様々な視野、価値観を人から学ぶことができた。
社会医学とは何かを知ることができた。(5年生)

はい。

(1)の点と、社会医学の仕事は、人とのコミュニケーションの中で沸いてくるのだろう、というイメージができたことが有意義でした。(5年生)

大学では社会医学をテーマにして議論することはほとんどなかったが、今回のセミナーでは討論だけでなく、直に先生と話をする機会を持てたことは非常に有意義でした。(5年生)

大変有意義でした。私にとって、社会医学に対する知識はまだまだあいまいですが、自分の今までの経験で知った「社会医学」に対しての認識で、合っていた点と間違っていた点がよく理解できたと思う。(5年生)

有意義だった。
十分に仲間と議論はできなかったが、多くのトリガーを得られたから。(5年生)

有意義だった。モチベーションの高い他の大学生と議論ができてよかった。
先生方のご講演もためになった。(5年生)

多くの事を考えるきっかけをいただき、多くの方々にお会いしてお話しできる機会をいただけて、大変に有意義なセミナーでした。(5年生)

- ・他の大学の学生と交流できた点。
- ・様々な角度から社会医学にアプローチすることができました。
- ・専門の先生方から、社会医学に拘らず、多くの話を聞けた点。
- ・日本住血吸虫病の克服の話も苦労がよくわかり、町の開発の意味合いを再確認した。
- ・参加者の熱意には気後れするほどでした。(4年生)

ある物事について、多様な見方ができるようになった。
それまで漠然とした知識しかなかったが、より深い知識を得られた。(4年生)

正直、いまいよくわかりませんでした。
領域架橋がテーマでしたが、現場に出てみないと…って感じです。(4年生)

非常に有意義でした。普段の大学生活では出会いない人達と知り合えたこと、第一線で活躍されている先生方と直接お話しできたのは貴重な機会でした。(4年生)

医系技官に興味があったが、仕事内容・役割などを詳しく教えてもらい、よりなりたいという気持ちが強まった。
(4年生)

有意義でした。数多くの活動的な先生方や仲間に出会えることができたことが一番です。また社会医学に関して理解が深まったことも意義あることでした。(3年生)

他大学との交流や意見の交換、グループワークを通してのディスカッションによって、ただ授業を聞くだけではなく、自分たちがその授業をきいてどう思うか？どうすればよいかというように、みんなで能動的に考えることの重要性について気づき、とても有意義だった。(3年生)

普段大学では聴くことができない社会医学の様々な方向からのセミナーを受けることができただけでなく、同じ医学生や院生の方々と考えを討論することができて、より自分の考えが広がったように感じました。(3年生)

他大の学生と普段関わりがないので、とっても貴重な機会だった。みなさん自分の意見やビジョンをしっかりと持っていて、刺激になった。私は社会医学についてほとんど知らない状態で来たので、社会医学というものに触れるきっかけとなり、感謝しています。(3年生)

普段、学問領域としてはなじみのない社会医学という分野に触れられた、重要な機会だったと確信しています。個々人に対するアプローチ、社会に対するアプローチ双方を考察する必要があると実感できました。(2年生)

グループ発表のためのパワーポイントを作成したとき、“誰もが納得する”理由を考えようと班員に言われました。そのとき、社会医学のイメージがピンときて、1日目にあった講義、2日目の講義全てを貫く考え方を理解しました。このような点で有意義でした。(1年生)

社会医学分野で第一線で働かれている先生方と同じ視線でお話する機会が得られたことが、本当に素晴らしい刺激となりました。

上から下を教える、という日常の講義のスタンスと異なり、この社会医療の様々な問題を一緒に考えてくださる先生方と出会うことができ、本当に嬉しく思いました。(学年不明)

多くの地域から学生が参加しており、医師の偏在の一つをとっても、全く考え方が違うことが分かって良かった。
(学年不明)

■ (3) 今回セミナーの改善点

医学生以外の参加があつていいのではないか。(卒後2年目)

参加して頂いた講師の先生方で、2日目以降の方が1日目の食事の時など話しかけにくかったようです。初日にご紹介頂ければ参加者側からお声掛けしやすかったと思います。こちらの未熟もありますが、よろしくお願ひ致します。(卒後2年目)

スケジュールが過密すぎて少し辛かったです。休憩時間が必要なのは、単純に休むという以上に、このサマーセミナーに参加している他の人との交流の機会を増やす、という効果もあると思いました。(卒後1年目)

セミナー毎にディスカッション、発表があるのはよいけど、ディスカッションの時間が短かすぎて、話が十分にできなかったように思います。(卒後1年目)

討論の時間が不十分(10分以下)であつたり、発表の準備にかけられる時間が充分でない状況は、無難にまとめようという方向性を作ってしまうと感じました。(大学院生)

ディスカッションする時間が短く、発表にむけて十分に話し合うことが難しかったと思います。(大学院生)

大満足です。ありがとうございました。(大学院生)

特にありません。

本当にお世話になりました。皆様のお陰で楽しく有意義に快適に過ごすことが出来ました。(大学院生)

休憩時間が短かつたので、もう少し長いとありがたいです。(大学院生)

少し、1日目、2日目でのグループワークに費やせる時間が少なかつた。
事前の広報が情報量をもっと欲しかつた。(6年生)

もっとアウトプットするものがあればよい。単にレクチャーを受けるだけでなく、何か活動をするとか。(5年生)

グループワークを行う時間をスケジュールの中に組み込んで欲しい。(5年生)

せつくなので、もう少し内容のある発表をすべく、しっかりとしたテーマや、もうちょっと発表準備の時間もほしかつた。(5年生)

交流会は、(スケジュール的に)2日間ともやる流れでも良かったのではないのでしょうか？(5年生)

グループによる発表のための準備時間がもう少しほしかつた。(5年生)

グループ発表に専念できる時間をもう少しいただきたかったです。(5年生)

- ・地域特異性のあるフィールドワークを加えていただくと、さらに刺激的です。
- ・1コマごとに休けい時間が欲しいです。
- ・ディスカッションの時間を長くして深めたい。
- ・発表時間とスライドの枚数のバランスがおかしいと思います。(4年生)

医学部学生だけでなく、他学部の学生からもメンバーを募った方がいいと思いました。
もっと幅広く議論できると思いました。(4年生)

パソコンは全員持参する必要はなかったのでは。
長距離移動者(特に公共交通機関利用者)には重荷でした。(4年生)

タイムテーブルがきつく感じましたが、しょうがないのかなとも思います。(4年生)

先生方が準備の全てを行ってくださっていたことにはとても感謝しています。しかし、学生を含めて行えば、より負担が分担できると思うので、次回考慮下さい。(3年生)

休み時間が少ない。(3年生)

期間がお盆中だったために、セミナーに出たくても出られなかった友人がいたので、できれば改善していただきたいです。(3年生)

グループ発表が2日目の夜だったが、2日目にはまとめきれないので、1日目の夜にやらなければならない、トークに熱がこもってしまい、夜が遅かったので、2日目少し眠くなってしまった。また、2日目に学んだ内容をもりこめなかったのが残念である。(3年生)

ディスカッションの時間があまりとれず、論点が十分に整理できなかった点が残念でした。(2年生)

特にないと思いますが、医学に関する単語でわからなかったものがありました。事前に予習できたらよかったと思います。(1年生)

日中の休み時間が非常に短かいため、セッション毎の感想になり、質問で言い切れなかったことが流れてしまったのは本当に残念でした。
もっと日中もゆとりがあれば、その都度、グループの人や先生方と議論や認識が深められたのになあ、と思いました。(学年不明)

一部セミナーが長くなりすぎたものもあり、学生での討論が短くなったものがあったのが残念だった。(学年不明)

■(3)今回セミナーの改善点

前回参加したときよりも、discussionが多く、とても楽しめた。

新鮮な意見や、先生方のもつ豊富な具体的経験で、幅を広められた。

コーディネートして下さった先生方に、本当に有難うございました。(卒後2年目)

本当に勉強になりました。

今後も頑張りますので、よろしくお願い致します。(卒後2年目)

グループ発表を2日目にしたことはとてもよかったと思います。自分と同じ班以外の人と2日目の夜に交流できそうなのが嬉しいです。

久保田先生のエピジェネティクスのお話をもっと詳しくお聞きしたかったです。(卒後1年目)

去年学生時代に来たときより、ずっと自分の中に入ってこないことが結構ありました。臨床で個をよくみるようになると、社会全体でとか国としてとかいう視点の間の矛盾点を感じて、もやもやしました。命が大切で、人としてどう動いていったらいいのか考えることが大事とはわかっていても、いろんな制約の中で臨床で困っていることがたくさんあります。社会医学をしている人にどれくらいそれが伝わり、お互いに話をしていけるのだろうかと思いました。遠い将来、社会医学の分野で働きたいと思っていますが、焦らず、目の前のことにいっしょうけんめいとくもうと再度確認できました。何にしろ、自分の考えが去年と比べてすこし変化していることがわかったし、考えを整理してみようと思いました。3日間ありがとうございました。(卒後1年目)

自分の未熟さを痛感すると共に、社会医学の奥深さ・おもしろさ・難しさを痛感しました。

家に帰ったら勉強します。ありがとうございました。(大学院生)

○社会医学と地域保健について

社会医学と地域保健の関係については、地域保健にて患者の分布と頻度をマッピング etc.、疫学的に評価を行うことで問題に気づき、それらを社会医学に問題提起する。その後共に問題解決に当たるが、それぞれの役割として、大きく分けると、社会医学は疫病機序を明らかにし、診療、方針及び予防活動の方針を定める、地域保健はそれらをもとに生活指導を行うといった分担があるように思いました。つまり、共に人の幸福を目的に社会全体を見据えて活動しているが、社会医学は疫病を、地域保健は生活を対象とした活動を行うという役割分担があるように思いました。

○啓発啓蒙について

地域保健では、啓発啓蒙はまず初めに手がける活動なのですが、あまり効果がないのではないかと半信半疑で活動を展開していました。大変反省しております。(大学院生)

グループ決めが良かった。(大学院生)

社会医学の問題ではないですが、このセミナーに参加している学生同士で話したり、発表を聞いて残念に思うことがありました。国際協力がなぜ社会的なアプローチを行うのかと考えたときに、「経済的損失」「国の立場」など

の言葉が最も強調されてしまうことです。医学教育ひいては義務教育での道徳観、倫理観の育成、地域や家庭での経験についても考えるべきだと思われました。(6年生)

懇親会や富士登山も企画して頂いて、レクリエーションという面でも楽しむことができたと思いました。(5年生)

記念に撮った画像などいただきたいのですが……。 (5年生)

貴重な機会を大切にしたいと思います。

先生方に感謝すると共に、スタッフとして働かれ準備された皆様、おつかれ様でした。(5年生)

この3日間大変にお世話になりました。

どうもありがとうございました。(5年生)

セミナーの充実を象徴するようなキレイな富士山が見えて本当によかったです。参加前の予想をはるかに上回る内容でした。来年も都合が合えば是非参加したいです。

お疲れ様でした。(4年生)

大変お世話になりました。ありがとうございました。

表面的な話だけではなく、裏話なども聞けてとてもおもしろかったです。(4年生)

ここまで準備の行き届いたセミナーは初めてでした。

先生方の熱意を感じました。ありがとうございました。(3年生)

全国各地の大学から多くの先生方にお話をさせていただくだけでなく、学生からの質問内容についても丁寧に受け答えをしていただけたので、非常に嬉しく思いました。ありがとうございました。(3年生)

・お部屋がきれいだった。ざこねだと思っていたので。

・ごはんがおいしかった。

・班わけが、学年・男女等バラバラでよかった。

・先生方が優しかった。

・山梨ワインがおいしかった。

・富士山が見れた。

・講義の時間がちょうどよかった。(20分+グループワーク体制)(3年生)

私は社会医療のなかで、国際医療だけに興味があって参加しました。講義を聞き、国際医療に対する興味はより一層増し、その他の分野も知ることができました。

とても楽しく興味深い2日間でした。ありがとうございました。(1年生)

とても有意義な2日間でした。社会医学の幅広い問題領域について、集中的に専門の先生方から話を伺うことができ、良い経験となりました。

ただ、一つ残念なこととしては、参加されている学生の社会意識が、他学部の学生と比べるとやはり低い、ということでした。それはここに参加されている方々の問題ではなく、医学部という学問の場が、社会と直接接点を持たないことからくる問題だと思われまます。医師になるという将来を担保に、社会を生活意識から排除できてしまう医学空間を、社会医学の力で改革して頂きたいと切に思いました。(学年不明)

短いセミナーの中、色んな人と接することができて本当に良かった。(学年不明)

社会医学サマーセミナーへの応募動機(順不同・匿名)

前の大学で社会科学を専攻し、3年半の社会人経験を経て社会医学を学びたいと考え医学部に編入しましたが、現在、社会についての関心と経験を生かせる医師、「病院の外」で働く医師としての進路を模索しています。ロールモデルが少ないため、社会医学サマーセミナーの機会に先生方が社会医学専門家としてどのような分野でどのように働いておられるのか伺い、進路設定の参考にしたいと考え応募致します。(5年生)

以前より、社会医学の分野、特に予防医学に興味を持っていました。社会医学サマーセミナー募集要項にあるような、解決すべき社会の問題・先達がなぜ社会医学を志したか・社会医学の役割・社会医学への期待について、講演をしていただきまた自分自身で考え討論に参加する機会を持つことができることを知り是非参加し、将来の進路の指針にすることができたらと考えています。特に、社会医学の分野を専門とする多くの先生方と直接に接し、話をしたいと考えていますので、宜しくお願いします。(5年生)

昨年大学の講義で社会医学について学び、その守備範囲の広さがとても魅力的だと感じました(実習ではがん検診の有効性やうつ病治療の変遷について学びました)。現在臨床実習中ですが、高度な治療をしても障害を残す疾患が少なくないように思います。しかし日常の生活習慣の改善などで発症を予防できるものも多くあり、予防医学の重要性を感じています。今回は社会医学の役割を学び、また社会医学に携わっておられる方々や興味を持って勉強をしている学生の方々とお会いしたいと思い、参加を希望いたしました。(5年生)

予防医学や医学教育、健康づくりのための環境調整などに興味を持っており、将来的に臨床の立場から社会医学へのアプローチを行う医師を目指したいと考えております。今回テーマとして扱われている「領域架橋」ですが、現在実際に臨床現場で働くなかで、患者さんが退院してから自己の生活へ戻る上で、多職種が関わり、環境を調整することの重要性を肌身で感じており、今回社会医学の視点から、その点について深められたらと考え、応募させていただきました。(初期研修医)

医学部学生の時から、予防医学、臨床疫学の分野に興味を持っており、2年間の臨床研修修了後、今年度より大学院に進学し勉強しております。予防医学のなかでも生活習慣病、循環器疾患の予防について興味をもっておりますが、公衆衛生分野に携わって間もないこの時期に、まず社会医学全般について知ることは、視野を広める点でも重要と考えております。学生の際に、このセミナーに参加していなかったため、是非この機会に参加させていただきたいと思い応募しました。(大学院生)

社会医学は将来何科を志すにおいても重要な分野ですが、臨床研修が始まってからはなかなか社会医学に触れる機会がないため、学生の今の時期を利用してこのセミナーに参加したいと考え応募させていただきました。他大学の先生方の講演を聴いたり、他大学の学生同士で討議したりすることは貴重な経験ですし、自身の体を使って身体機能を学ぶ富士山登山も魅力的に感じました。二泊三日という短い期間ではありますが、とても充実した内容だと思います。学生最後の夏休みをこのようなセミナーに参加して有意義に過ごしたいと考えております。(6年生)

私は入学して以来、勉強だけでなく社会に適応できるよう、学外における医学生同士の活動、災害ボランティア

ア、福祉施設での体験活動など学内外で様々な活動をしてきました。それらの経験に加え、BSLをする立場になって、医師になってからの医師同士あるいは関連職種との人間関係にますます興味を持つようになりました。今回このセミナーに参加させていただき、社会医学の専門の皆様ならび医学生と交流することによって、社会医学についての理解を深めたいと考え、応募させていただきました。(5年生)

私は将来単に病院に勤める臨床医というのではなく、社会全体を視野に入れて社会に対してアウトプットできる医師を目指しています。今回の社会医学セミナーで社会医学という分野の全体像とその役割、どのような広がりを持っているかを知るとともに、実際にそこに関わる専門家の方々の話を聞き仕事のイメージを掴み、社会医学が何を出来るかを考える機会になると思い、応募いたしました。(5年生)

医学科学生として3年目を迎え、大学の講義で病気に至るまでの過程について学んだことや、大学内で百日咳の感染拡大を予防するための取り組みを見て、改めて公衆衛生の重要性について考えさせられたことがサマーセミナーに応募した理由です。将来医療従事者として働く際、病気の治療はもちろん重要ですが、それ以前に感染症などの病気にならないように予防することも治療と同じく重要な医療行為であると考え、社会医学についてより詳しく知りたいと思い応募させていただきました。(3年生)

私たちは昨年入学後、「生命倫理研究会」を設立し、昨年は産婦人科医の医師不足問題やハンセン氏病問題をとりあげて、医療と政策に関する勉強を続けて参りました。昨年夏には、厚生労働省の医系技官採用セミナーに初学年であるにもかかわらず参加させていただき、医政局や医師不足対策室の技官の方々から、医療政策の現場の意見を聞かせていただきました。医学部の勉強の合間を縫って、医療経済、医療政策などについて今後も勉強して行きたいと考えております。

社会医学セミナーにて、医学と社会を架橋してさまざまな意見交換ができればと思い、申し込ませていただきました。よろしく願い申し上げます。(2年生)

私は現在、基礎医学を学んでおります。日本の医療を取り巻く環境を、臨床付けになる前の学生時代に理解しておきたいと考え、昨年度から、医師不足問題、医療経済について公衆衛生学教室の先生方、厚生労働省医系技官の方々のご指導の下、有志を募って勉強会を重ねてまいりました。しかし、普通の大学生活では、勉強も医学一辺倒になりがちで医学と社会とのつながりを実感する機会が少ないのが現状です。

他大学の学生と活発に意見交換を行い、社会医学に対する知見を広げたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。(2年生)

昨年も社会医学サマーセミナーに参加させていただき、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。昨年からの一年間で医学の知識も増え、それをふまえて今年も社会医学の専門家や医系技官のお話をきかせていただきたいと思います。講演を聴き、議論に参加することで社会医学に関するさらなる理解を深めたいと考えております。(2年生)

昨年社会医学セミナーに参加させていただき、非常に刺激を受け、また参加したいと思っていました。現在は初期研修医です。将来の方向として公衆衛生に関わる仕事を考えているので、今年も参加させていただきたいです。よろしくお願い申し上げます。(初期研修医)

社会医学における予防医学は必要な役割を占めています。私は、医動物の講義を受ける中で予防医学の大切さの理解をふかめました。メタボ検診のように、最近の予防医学は、注目を集めていて、私は、こうしたことが国民的な規模で取り組まれはじめていることに大変期待しています。予防医学の考え方が広まっている中で、第一線の専門家から学べる今回のセミナーに是非参加したいです。この体験が必ずや、医師となってからの大いなる糧となりえると考えています。(3年生)

私は昨年奈良で行われた社会医学サマーセミナーにも参加しました。昨年の夏の段階ではまだ大学で社会医学の講義を受けておりませんでした。先生方の分かりやすいご講義で、社会医学とはどういうものなのかを学ぶことができました。また、全国の医学生との交流も大変貴重な経験となり、良い刺激を受けました。今年もぜひ参加して、有意義な夏休みにしたいと思います。(5年生)

卒後は家庭医療分野での活動を考えています。そのうえで予防的な考えと研究が重要であると考えていますが、現在のところ社会医学分野に関する授業等がなく、今回のセミナーへの参加をこれからの積極的な情報収集への第一歩にしたいと考えています。また、今回のセミナーでは様々な先生や厚生労働省技官の方の講演をお聴きする事ができるという点、参加者での討論等盛りだくさんの内容に非常に魅力を感じています。是非とも参加の許可をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。(3年生)

高校1年生の夏休みに、ガーナの学生と交流する機会がありました。私が英語を話せなかったためあまり会話はできませんでした。彼らはチョコレートや、家庭料理によく使われるという塩辛い、味噌のような食べ物をくれました。

日本と異なる文化はとても面白く、世界に伝えたいと感じました。そのために私ができることは何かと思ったとき、医師なら何か手助けできるのではないかと考えました。しかし、まだ具体的に何ができるかよく分かりません。社会医学サマーセミナーで何かヒントが得られるのではないかと考え、応募しました。(1年生)

大学生活も半ばを過ぎ、大学卒業後に自分が一社会人として果たすべき役割とは何かを考えるようになりました。医療と社会のインターフェイスである社会医学こそ、自分の役割を社会の中に位置づけ存在意義を示してくれるものだと思います。今後自分がどのような職に就くことになるにせよ、医療に関わる以上は社会医学の視点は常に必要であると感じています。様々な社会問題を解決するべく第一線で働いている方の講義や、同じように社会医学に興味を抱いている他大学の学生との交流は、またとない貴重な機会であり非常に楽しみにしています。今回のセミナーを通して、自分自身の将来に向け高いモチベーションをつくるためのきっかけを作りたいと考えています。(4年生)

昨年のサマーセミナーに参加させていただき、社会医学のものの見方や考え方に触れて感銘を受けました。また社会医学に関わる先生方や社会医学に興味を持った他大学の学生と話せたことは大変刺激となり、自分の将来についても考えることができました。とても楽しく充実した3日間でした。

社会医学についてもっと学びたいと思い、今年のセミナーにも申し込みをさせていただきました。よろしくお願いいたします。

私が今回サマーセミナーに参加した理由は個人で患者さんに向き合うだけでなく、社会という広い視野での考え方や知識を見に付けたいからです。もともと、予防医学には興味があり、そういう観点からも社会医学には興

味があります。ただ、大学ではまだ社会医学を学んでないのでしっかりと知識はまだ何もっておりません。しかし、このセミナーを通して色々な人と触れ合い、色々な価値観を学び、吸収して将来の医師像を形作ってきたいです。(4年生)

四回生の時に公衆衛生を二週間学びましたが、そのときはあまり社会医学が臨床とどういったつながりがあるのかということについて深く考えていませんでした。五・六回生とクリニカルクラークシップでいろんな科をまわり、四回生のころにはわからなかった社会医学とのつながりや重要性が少しわかりはじめ、今回学生生活最後の夏休みという機会を利用し、さらに理解と興味を深めたいと思い応募させていただきました。よろしくお願いいたします。(6年生)

医師国家試験及びマッチングの目前ではあるが、医学生が進路として医師にしかねないのではなく、医系技官を始め沢山の道があることを知り、自分の将来に幅を持たせたいと思ったから。また、自分と同じように自身の将来にさまざまな考え方をもっているであろう学生達や現在医師以外の仕事をしている方々と実際に話をしてみても自分の考え方、知識を深めたいと思ったから。(6年生)

社会医学セミナーというものがあると先日友人から誘いを受けました。医学生でありながら「社会医学」と聞いて、これといった具体的なイメージを持つことができず参加を戸惑っていたのですが、社会医学専門の先生や厚生労働省医系技官の方がその役割などについて講演してくださるとうことで申し込ませて頂くことにしました。内容を理解し、意見を述べることができるか心配ですが、このセミナーを通して臨床前に日本の医療の現状を社会医学の面から少しでも考えることができればと思います。(4年生)

3年次に公衆衛生学教室に半年間配属し、そこで公衆衛生学、疫学などの講義を受け、社会医学に非常に興味を持ちました。疫学を中心に学び、4年生となった現在でもその時から行っているコホート研究の論文を作成中です。また将来の進路の選択肢として、医系技官を考えております。厚生労働省などで、現在の医療システムが抱える問題点の解決を図るべく、自分が尽力することができれば良いと思っています。なので、同じような志を持っている方々、また、実際に現場で活躍なさっている方々とぜひお会いしたいと思います。(4年生)

大学入学当初から社会医学に関心を持ち始め、2年次より本大学公衆衛生分野の教授の下で抄読会や疫学の研究に参加させていただいております。過去2回社会医学サマーセミナーにも参加しており、そこで得られた経験は非常に大きなもので私を成長させてくれました。昨年は日程の都合が合わず参加できませんでしたが、本年も是非とも参加し、社会医学の専門家である先生方や私と同じ学生の皆様にお会いしたく申し込みました。(5年生)

私が今回社会医学サマーセミナーに応募させていただいたのは、健康および疾病と社会的要因との関係に興味があるからです。職業や地域社会、経済条件の違いから生じるその各人のかかりやすい疾病を調査研究することにより、各人に最適な医療体制を確立することができるのではないかと考えます。そのような体制を整えることは、その地域の医師にとっては医療の提供の在り方がある程度明確化することとなり、地方の医師不足の解決策の一つになりうると思います。また、サマーセミナーを通じ、全国の医学生との交流を持っていきたいです。よろしくお願いいたします。(1年生)

大学の掲示板でこのセミナーを知りました。私はこの夏に、フィリピンで日本住血吸虫の撲滅に取り組むプログラムに参加します。大学3年になり寄生虫学の講義が始まり興味がわいていく中で、各地域に根ざした医療や環境づくりが大切であることを知りました。また、山梨県は以前、日本住血吸虫の流行地であったことも知り、今回の社会医学セミナーは山梨県で行われるということで絶好の機会だと思いました。自らの足を運んで、フィリピンと山梨県の日本住血吸虫撲滅への工夫を見てみたいです。社会医学についてはまだあまり知識はありませんが、このセミナーが社会医学を学ぶきっかけになれば、と思っています。(3年生)

学校の授業でお話を聞いてから、社会医学という分野に興味がありました。

低学年の際には、研究室の基礎配属にても社会医学講座にお世話になり学問的な面白さも感じています。そのため、このような機会に同じく興味関心を持っている方々の考え方に触れ、意見を交換したり、諸先輩方のお話を伺ったりしたいと思い応募しました。大学院に進む際の選択肢としても考えていますので、その参考にもなったらと思います。(6年生)

入学当初から社会医学や公衆衛生に興味があったのですが、授業以外で特に社会医学について勉強できる機会が持てませんでした。今年は山梨県での開催であり、自分も4年として疾患について多少理解ができていると思い、応募に踏み切りました。今回初参加でまったく知識がない状態でご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いします。(4年生)

私は現在大学院で公衆衛生の研究を行っています。今回のセミナーではすでに様々な現場で実際社会医学系の仕事をされている講師の方々から幅広く、社会医学の新たな側面を教えていただくことのできる、また日頃のデスク中心の生活から少しはなれ同じ目標を持った仲間と共に社会医学について思う存分に語り合う絶好の機会であると思い応募いたしました。(大学院生)

学部では精神病理を中心に勉強していましたが、完治の難しさや入退院を繰り返す患者さんの状況を目の当たりにして予防医学・社会医学に興味を持つようになりました。そのときの疑問をスタートに、大学院で医学・社会・心理・経済・政治・文化と様々な観点から疾病の発生状況を勉強してきましたが、私とは違うバックグラウンドや経験を持った他の学生や研究者、そして実務者の方達と討議し、刺激を受ける中であらためて社会医学の役割や今後の方向性を考えたいと思い応募致しました。(大学院生)

社会医学セミナーに参加したい理由は、昔から社会医学というものに興味を持っていたからである。今回この社会医学セミナーに参加することで、今まで知らなかったことを学んだり、同じ社会医学に興味を持っている人とたちと情報交換や今後の抱負を語り合うことで、これからの学業や社会貢献につながるきっかけが得られると考えている。また、社会医学という分野は多岐にわたるので、これから求められる社会医学の世界を知ることができると考えている。(大学院生)

3年生の時に医学には「治療」の前に「予防」があることを学びました。これから、医師になる訳ですが、僕は臨床だけでなく、なにか研究のほうにも携わりたいと考えています。そこで、働く時に「やってくる患者」だけを相手にするのではなく、いったいどんな人たちが同じ疾患で苦しんでいるのか、どんな地域でよく見られるのか、そんな大きな視点が、それぞれの疾患を理解、解決していくためには非常に重要だと感じました。そこで今回、参加を希望しました。(4年生)

病気になって病院に来る『個人』ではなく、特定の 방법으로定義した『集団』の健康維持・増進やQOLの向上を目指しているという点で、社会医学は非常に魅力的な学問だと考えています。私は将来臨床医として働きたいと考えておりますが、臨床の現場においても統計や疫学の考え方を大事にしていきたいと考えており、今回のセミナーでは、それらを中心に社会医学的な考え方やアプローチの仕方を学んでいきたいと考えております。よろしく申し上げます。(6年生)

実際に社会医学が関われることを詳しくは知らないのですが、最近、医療統計について勉強する機会があり、これはチャンスなのかなと思っていました。部活の先輩である先生が世話人をされているということもあり、お話を聞いて参加に踏み切りました。医学の可能性など知見を広げられそうなセミナーに貪欲に参加したいと思います。学年相応の学力があるかは不安ですが、がんばります。宜しくお願い致します。(5年生)

私の参加動機は、領域架橋における社会医学の役割を学ぶことで、私の専門である地域保健の役割を考えることである。多分野との相互関係が不可欠な社会医学の役割を学ぶことは、同時に相互関係の相手先である様々な職種の役割を考察することでもある。また、各分野における社会医学の役割について、一度に学べる機会はあまりない。これは、コーディネーターとしての役割を担う保健師においても、貴重かつ重要な機会であると考えている。(大学院生)

学生時代から漠然と公衆衛生に興味を抱いていましたが、研修医になってその気持ちが強くなり、臨床だけでは変えられない分野へ自分で何か出来ることはないかと模索しております。セミナーの存在を知って是非参加させていただきたいと思いました。臨床研修中、表には出てこないもののいざ患者とその家族の今後を考える時には絶対に必要となる社会医学について、勉強していきたいです。(初期研修医)

セミナーを終えてー参加学生の感想ー(順不同・匿名)

「社会医学と自分」といった抽象的な問題意識を持って参加した社会医学セミナーだったのだが、今回学んだことの多くは「これからの自分と社会医学」という面が強かった。

「今までの自分と社会医学」では、自分の知らぬ間に社会医学の恩恵を受けていたということで、「今の自分と社会医学」は、医学生として、社会医学の授業を受講し、少しではあるが社会医学の知識がある自分。そして、今回の社会医学セミナーはお互いが持っている考えを、交換合う、ある意味では実践の場だったといえる。そこで、得た知識や、考え方の違い、大学によってのある種の文化の違いのようなものあり、とても、勉強になった。(6年生)

今回ディスカッションしたテーマは現実的で重要な問題であるにも関わらず、医学部教育ではあまり話題に上らないようなことが多く、大変興味深かった。

実際の医療の現場では、何が善で何が悪であるかを判断するのが困難な状況が多々あると思う。今回のセミナーでも明確な解答が用意されていないテーマについて討論したが、いろいろな立場の方の考えを踏まえ、自分達の力で徹底的に考えるということが重要であるし、またそういう視点が実際の現場で求められているのだと感じた。

社会医学の第一線で活躍されている先生方や社会医学に興味を持った学生と過ごす時間はとても充実していた。また是非参加したいと思う。(5年生)

講演では、医系技官は何をするのか、ヤコブ病はどのような病気なのか、など、沢山の具体的な知識を得ることができました。発表とその準備では、グループで自殺対策についてデータを用いて考察しました。話し合いながら考えることで、社会医学とは、患者さん1人と向き合う医療ではなく、地域の中の多数の人々に対する医療なのだとわかりました。

私は1年生で、まだ医学の知識はほとんどありませんでしたが、多くのことを学ぶことができました。これから医学を学ぶ上で役立てたいと思っています。(1年生)

社会医学とは多くの人が閉塞感を覚えている「生きづらい社会」を、医学に片方の足を置きつつ記述・分析・考察する学問であり、得られた成果をより「生きよい社会」を目指して社会に還元することができる学問領域であることを学びました。これまで科学に価値観を持ち込んではいけないことになっているような先入観がありましたが、社会医学に取り組むときに、価値や倫理を持ち込んでよいのだ、ということを知ったのが最大の収穫です。とりあえずロールズの著書に取り組んでみたいと思います。(5年生)

社会医学セミナーに参加して本当に良かったと思います。昼間は全国から集まった同年代と講義を元にしたことを率直に意見交換し合い、夜は普段講演でしかお会いすることのない著名な先生方とリラックスした雰囲気の中で学業から人生まで幅広く語り合うことが出来ました。自分の中の社会医学の認識を見つめ直すつもりで参加しましたが、社会医学の面白さ・深さを知ると共に大学教員・研究者という職業に惹かれる2泊3日となりました。セミナー実現のために募金して下さった全国の公衆衛生の先生方、主催者の山梨大学の先生方を始め、お会いした全ての方に感謝致します。貴重な経験をありがとうございました。(大学院生)

今回のセミナーは1時間の中で講義にディスカッション、発表とかなり1コマ1コマ内容の濃いものでした。短

いディスカッションタイムにも関わらず班員それぞれが異なる視点で意見を交換し合い、最終的に1つのメッセージとして発表するという作業を繰り返すうちに社会医学という大きな領域の発展には様々な知識、考えを持った人々との意見交換が必須であると実感しました。

医学をバックグラウンドに持たずに今回のセミナーに参加した私にとっては医学という幅広い分野の担い手である医師や医師の卵の方々の視点が刺激になったし、また逆にコメディカルとしての私の経験が医学をバックグラウンドに持つ方にとって新鮮なものとなったかもしれません。非常に貴重な経験となりました。(大学院生)

社会と関わって生きる人々をとらえ、問題解決を図る社会医学において、多分野の人が関わり合うことは不可欠であり、そのギャップを埋める作業が重要であることを本セミナーを通じて実感した。殊に今回のテーマが「架橋領域」でなく「領域架橋」であったのは、最初から繋がっているわけではなく、領域間を「繋げる」という動的な意味合いが含まれていたのではないだろうか。そのために人を説得するための evidence が必要であり、それを伝える communication が必要であり、ともすれば理責めの冷たい印象を受けるが、実際領域を架橋する根底は「社会全体の幸福」を願う気持ちであり、その意味でとても温かい医学だと感じた。(卒後2年目)

今回初めて社会医学セミナーに参加して、本当に社会医学の多岐にわたる奥深さを学んだ。私にとって「社会医学」とは今だけでなく未来を見据えた学問であり、「あたりまえのこと(生活)」が“あたりまえである”ことを未来永劫に渡って人々に提供することだと考える。生老病死という四大苦を乗り越える際に何度も“あたりまえ”の難しさを実感し克服したいと願うのである。先生方のお話を伺い、参加者との語らいは今後の糧となると考える。私も社会医学を様々な分野に広げ、社会医学の楽しさや素晴らしさを多くの人に伝えていきたい。このような素晴らしいセミナーを企画・運営して下さった多くの方々に感謝致します。本当に貴重な経験をありがとうございました。(大学院生)

今回はセミナーに参加させていただき本当にありがとうございました。緊張感でいっぱいでしたが、皆さんが暖かく迎え入れてくれたおかげで楽しく三日間を過ごさせていただきました。セミナーの感想ですが、難解ではありますが、興味深い内容を立派な講師の先生方に講演いただき本当に刺激になりました。特に、参加者がより深く参加でき、より深く考えるようにディスカッションとプレゼンターがショングループに入れられていたのは秀逸でした。一般的に、受身の受講がされがちなセミナーの中でわざわざ時間を割いていただいただけの意味合いは想像以上のものであったように感じました。来年も是非参加したいと考えております。よろしく申し上げます。(4年生)

二泊三日という短い期間でしたが、社会医学というものについてあんなに考え、討論をしたのは医学部六年間で初めてのことでした。実際このセミナーには実習として参加させていただきましたが、得るものがたくさんありました。コミュニケーションをとることは得意な方ですが、あまり知らない知識や今まで考えたこともなかったことについて意見を言い合って話すことや、発表をすることにはじめかなり抵抗がありました。しかし、このセミナーで討論の回数を重ねるごとに少しずつでしたが皆の意見を聞き、意見を述べるのが楽しくなりました。講義では授業とはまた違った形で参加ができ、興味を持って取り組むことができました。まだまだ社会医学については学ぶことがたくさんありますが、このセミナーに参加させていただいたのを良い機会にして、来年から研修医として、また一医師として医療に取り組みたいと思います。とても楽しく有意義な二泊三日でした。ありがとうございました。(6年生)

今回初めて社会医学サマーセミナーに参加させていただきましたが、まず他の大学の学生さんの積極性に驚

きました。班内での発言はもちろん、率先して発表や質問を行う姿を見て、私も見習わなければならないと思いました。最初は自分の意見を口に出して説明することや、みんなの意見を一つにまとめることにとても苦戦しましたが、3日間のセミナーを通じて少しはうまくできるようになったと思います。今年初めてなので今までの形式については存じ上げませんが、20分間の講演とディスカッション、発表というスタイルは聞くばかりの受身の講演とは違って新鮮で、学生の集中力も持続し、とてもよかったです。

また著名な先生方の講演はとても興味深いものばかりで、社会医学の役割、大切さ、おもしろさがよくわかりましたし、普段の大学生活ではできないとても貴重な経験ができました。ありがとうございました。(6年生)

働く人の健康から社会医学に関心を持つようになり、去年初めてサマーセミナーに参加し、今年は初期研修医ですが参加させていただきました。実際の臨床に身を置くようになると、去年のセミナーではずっと頭に入ってきたものがなかなか入ってこない印象がありました。「みんなが幸せになれるように」。元々、人は心身ともに健康でないと幸せになれると思ひ医学の道を志した私にとって、この言葉が何度も先生方の講演の中で出てきたことがうれしくもあり、ほんとにそうなのかと疑ってしまったりもしました。ほんの4か月の経験ですが、臨床ではそう思っているだけでは解決できない問題がたくさんあり、そんな理想だけでやっていけないと感じてしまうからかもしれません。あきらめることなく、それを解決していくのが社会医学の役目なのではないかと感じました。セミナーで学んだこと、感じたことを今後の研修や将来に役立てていこうと思います。ありがとうございました。(卒後1年目)

今年も社会医学サマーセミナーに参加させていただきました。私にとってこの3日間は、暑い夏に吹いた、山の涼しく気持ちいい風のようなものでした。先生方の貴重なお話を聞けたことはもちろん、社会医学に興味を持つ多くの学生が集まり、議論できたことをとても嬉しく感じています。出会い、繋がりを大切に、そしてこれからの私が入る心に気持ちいい風を吹かせられるよう考えて行動していきたいと思いました。

最後になってしまいましたがこの機会を与えてくださった先生方、関係者の方々に改めてお礼を言わせていただきたいです。セミナーに参加できて本当によかったと感じています。ありがとうございました。(卒後1年目)

社会医学セミナーを通して感じたのは医学を修めた人には社会にアプローチする様々な方法があるのだということです。臨床医、研究、行政、教育、国際機関で働くなどそれぞれ多様な働き方がありますが、どれにしても結局は社会のニーズを的確に把握するというのが一番大事だということを感じました。また、社会で起こる医療問題に対しマンパワーや資金、時間の制限の中で試行錯誤して問題解決を図る難しさと面白さを感じることができました。今回お世話になった先生方や参加した学生との出会いは大きな財産になると思います。(4年生)

今回社会医学サマーセミナーに参加することができて、とても良い経験をする事ができたと思う。その理由は2つある。

まず初めに、7つのセミナーや特別講演で先生方の貴重なお話を聞くことができ、とても勉強になった。普段大学で勉強する内容とは違い、講演のあとのディスカッションがしやすいようなテーマや内容だったりで、ディスカッションでも活発な議論ができた。

2つめは、他大学の学生と2泊3日間衣食住をともにし、交流や議論ができたことである。様々な考えを持った人がおり、良い刺激を受けることができたと思う。

このような素晴らしいセミナーに参加でき、世話人の先生方にとっても感謝している。(5年生)

私が今回のセミナーで一番印象に残っている言葉は「小医は病を医す。中医は人を医す。大医は国を医す。」という言葉です。小医・中医・大医の全てを兼備しなければいけない社会医学者の存在は貴重であることがよく理解できました。全世界が豊かになっていくためには社会医学的なアプローチが各分野で必要になることがわかり、社会医学の重要性を学ぶことができたと思います。これからは常に変わっていく社会に対しても柔軟な対応ができるよう、そして私たちができる仕事の役割を常に考える姿勢を持っていたいと思います。(5年生)

私は、今回初めて社会医学サマーセミナーに参加しました。セミナーでは著名な先生方から実際の活動を聴講し、また、学生同士でディスカッションすることで、社会医学の役割や今まで感じていた疑問等について深く考察するきっかけを得ることが出来ました。また、今回ご講義頂いた諸先生方や各大学の学生とのネットワークも広がり、非常に収穫の多いセミナーとなりました。そして、セミナーを通じて、社会医学などコミュニティを対象とした研究の、その難しさと奥深さを実感すると同時に、興味と関心を高めることが出来ました。

最後に、諸先生方をはじめスタッフの方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました。(大学院生)

近くでの開催ということもあり、気軽に参加させていただきました。しかし、この分野での著名な先生方の話はどれも非常に有意義で、なおかつディスカッションでお互いの考えを交流し合えることが、自らの視野を広げるのに役に立ちました。

特に、興味を持ったのは高野先生の国際保健と、本橋先生の自殺対策の二つで、「本当に必要な国際貢献とは？ 自国が苦しいのになぜ援助しなくてはならないのか？」「対策をどのように計画したか、そしてその計画をどう評価し、フィードバックしていくか」など、今まで触れることが少なかったことを学び、考えることができました。

このような機会を作ってくださったことに感謝しています。ありがとうございました。(6年生)

自分の参加動機は弱かったと思う。どんなものか知りたい程度であった。それは、まわりと話してみても少し温度差みたいなものも感じたからだ。しかし、その立場からでも十分に惹きつけられるものを見出せたことは、社会医学の魅力と考えている。自分が不勉強だということもあるが、医学が担当している領域は広い。単純に臨床だけではないのだ。言葉では分かっていたことだが、医師としての道は多くの可能性を秘めていることを感じられた。交流会では、先生方の魅力をますます近くに感じられた。友人が増えたことも大きい。

とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。(5年生)

社会医学セミナーには初参加でした。若い学年のころから社会医学や公衆衛生学に興味を持ち、活発に発言する学生の方々のお話を聞き非常に考えさせられました。私自身は現在、臨床現場の末端にいますが、日々の生活の中で視野をいつの間にか狭めていたことにも気づかされました。講師の先生方のお話からは臨床に深く関係があるにも関わらず、そう思っていないと見落としてしまうものが多数あるという危機感を頂きました。この先どんな進路を選択したとしても、今回のセミナーで得た視点を活かしたいと思います。

講師の先生方、ならびにご企画くださった山梨大学医学部社会医学講座の皆様方に改めて御礼を申し上げます。(卒後2年目)

一言で言えば「社会医学は領域のない学問だ！」これに尽きると思います。疫学は然り、経済学も立派に社会医学たるのだと実感しました。今回のKeywordは領域架橋でしたが先生方の様々な分野の問題をそれぞれ

色々な方法を用いて approach しようとしている話を聞くことで自然に頷くことができました。

これからの世の中、生活の問題は医療、介護、行政を含んだ地域のネットワーク、そこに個々人の経済問題が複雑に絡んでいると思います。高齢社会における医療、介護の融合はもちろん、従来の構造が消滅してしまったために地域に積極的に新たなネットワークを作り直すか(積極的)、新しくできた従来の接続範囲を無視した小範囲の新しいつながりを上手く使うか、上限と下限が大きく開いてしまった個人の経済状況をどうフォローするかが重要だと思います。また、視点を国内にとどめておく必要はなく海外にも向けても良いことも僕には新しいことでした。

社会医学だけではない、他のどの分野(もちろん医学も含む)も今までの枠を超えて色々な他分野を巻き込んで考えることがこれからは必要ではないかと、考えさせてくれた3日間でした。ありがとうございました。(▽)=3(4年生)

今回セミナーに参加させていただき、社会医学が、社会における健康被害や疾病予防などの課題に対して医学的な知識・技術を駆使してより良い環境を目指していく学問分野であるということを学びました。

また、この様な課題を解決するためには個人、地域と、様々な分野における専門家の協力が不可欠であり、架橋される領域は解決すべき課題に応じて多様であるように感じましたが、医師としての立場からは、様々な因子と健康との因果関係を研究すること、効果的な介入方法を研究すること、介入による効果を評価すること等に率先して取り組むことが重要な役割であるように感じました。(6年生)

「日本古来の共同体が崩壊し、共通の価値観のなくなった社会で、社会医学に変革が求められている反面、感染症対策や保健の分野では人類を平等に、包括的にサポートし続けていかなければならない。」3日間のセミナーを通して出した自分なりの結論です。

今回の社会医学セミナーでは、熱い志を持って社会と医療との接点を模索する学生や、社会医学や医療行政の第一線で活躍されている先生方と出合い、とても有意義な時間が過ごせました。限られた時間で明確な結論は出せなかったものの、グループディスカッションでお互いの意見をぶつけ合うことで、さまざまな切り口から自殺予防対策、国際援助などの医療トピックを見つめることができました。

このような貴重な機会を作ってくださった衛生学公衆衛生学教育協議会の先生方、山梨大学のスタッフの方々に深く感謝いたします。どうもありがとうございました。(2年生)

私が今回社会医学セミナーに参加させていただき、他大学の先生方や学生との交流を通して感じたのは、“何が大切か”を考える力を養っていかなければならない、ということでした。昨今、医師不足問題、地域医療の崩壊など日本の医療界が改善していかなければならない問題は鬱積しているように思います。今回のセミナーでも社会と医学の間にはまだまだ大きな溝があるように感じました。その中であって少しずつでも問題を改善していくためには、多大な労力と時間は要すると思いますが、地域や小さなコミュニティからでも積極的に問題に取り組んでいくべきなのでは、と自分は感じました。また、現在直面する難題に問題意識を持っている先生方や学生が少なからずいるということを知れただけでも自分にとっては大きな収穫でした。このような機会を与えてくださった山梨大学の先生方、並びに関係者の皆様には深く感謝したいと思います。ありがとうございました。(1年生)

社会医学サマーセミナーに参加させていただきありがとうございました。たくさんの先生方に講演をしていただきましたが、私が最も印象に残ったのは本橋先生による自殺対策についてのレクチャーでした。討論の際には、

なぜ自殺対策が必要か、という点についてグループで話し合ったのですが、後付け感がどうも拭いきれずどれもしっくりきませんでした。しかし先生が「正義をかかげることの正しさ」について話していただき、すんなりと納得できたような気がします。また、今回は山梨県での開催ということで富士登山ができたことも大変貴重な体験となりました。機会があればまた参加させていただきたいと思います。3日間本当にありがとうございました。(4年生)

今回のテーマは「領域架橋する社会医学」。講義やディスカッションを通じて様々な社会医学領域について考えさせられました。どれも示唆深い内容で社会医学の役割について考えさせられましたが、何よりも有意義だったのは一線で研究をなさっている先生方と参加者学生が同じ目線に立って、医学と社会の関わりについて長時間議論させて頂いたことでした。それが私には大きな「領域架橋」の実験のように感じられ、先生方の社会に対する熱い眼差しを共有させて頂いたように思います。また医学と社会との接点について議論する多くの友人と知り合うことができ、本当に有意義なセミナーだったと思います。本当に貴重な体験をありがとうございました。(2年生)

とても頭を使った三日間でした。社会医学という分野の第一線で活躍しておられる先生方のレクチャーを聞き、そのたびにグループのメンバーとディスカッションをし、発表し、他のグループの発表を聞くという一連の流れは、学校ではなかなか経験できないことでした。しかし、ただ聞くだけではなく、こういった作業により、さらに理解を深めることができました。もちろん先生方のレクチャーはどれも現在問題になっているトピックを取り上げていて、一緒に考えよう、という問題提起の仕方が非常に興味深かった。社会医学とはどれも答えがないような問題ばかりで、どのように全体でコンセンサスを作っていくかが重要なのではないかと感じた。(4年生)

わくわくするとはまさにこのことでした。今回初めて社会医学セミナーに参加させていただきましたが、正直に申しますと始まるまではよく分からないこのセミナーへ期待とともに不安がありました。ですがいざ始まってみると普通の医学部の授業とは大きく違った内容、形式のプログラムで、新鮮さもあり夢中になってしまいました。特に、20分でインプットして20分後には何かをアウトプットする、というグループディスカッション形式をとっていたのに感動し、そういうことができるのも単なる技術職ではない社会医学という分野の方々のおかげかな、と思いました。開催していただいた山梨大の諸先生や、維持してくださっている教育協議会への皆様に感謝したいと思います。(5年生)

私は今回のセミナーで3回目の参加になるのですが、今回も非常に濃密で有意義な3日間を過ごすことができました。3日という短い時間の中で学んだことは多くありますが、他の参加者や第一線で社会医学を牽引している先生方と出会いお話しすることができたことが何物にも代え難い貴重な経験となりました。特に発表の為に班員と過ごした時間は、社会医学の担う役割についてこれまでになく真剣に向き合う良い機会となりましたし、何よりも皆と本音で語り合うことができたことで、とても大きな刺激を受けることができました。そのような中で、限られた時間でどたばたとまとめた割には、最終的に納得のできる発表ができたのではないかと感じております。

最後になりましたが、今回世話人の山縣教授をはじめとしたセミナー運営にご尽力くださった山梨大学の先生方、そして講師として参加してくださった諸先生方には大変にお世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。(5年生)

今回の社会医学サマーセミナーを終えて、予防医学や健康管理活動にますます興味を抱くことができました。医療の現場では、多職種が関わり合い、患者さんの退院後の生活環境を調整することがますます重要視されて

くと思います。多職種が関わり合う社会全体を一つの生命体とみなしていくためにも、今回のテーマにもある「領域架橋」の概念が必要なのだと感じています。社会医学分野に期待することができる分野・テーマがたくさんあることに気付くことができたセミナーであったと思います。ありがとうございました。(5年生)

他大学の医学生との交流や、ディスカッションを通し、社会医学とは何かを十分に考える濃い時間を与えていただいたと感じました。先生方のお話を聞くだけでなく、先生のお話を聞いた後、学生同士のディスカッションという形式によって、問題の難しさを実感し、他の人の意見を聞くことで、自分の考え方以外の考え方にふれ、そんな考えがあるのかと、目からうろこでした。また、懇親会では、様々なお話をお伺いするという貴重な時間をいただき、社会医学への関心がさらに強まりました。来年も社会医学サマーセミナーに参加したいと思いました。(3年生)

今回のセミナーには質量ともに大変満足しています。社会医学が扱う分野が多岐に亘っているということ、これからの日本の医療にとって非常に重要かつ重点的に進めていく必要のある分野であるというように理解しました。また各分野の第一人者である先生方の講演を拝聴した後にディスカッション、グループ発表という形式は最初圧倒されましたが、慣れるにつれてとても有意義なものとなりました。このセミナーに尽力下さった先生方には非常に感謝しています。ありがとうございました。この経験を今後活かせるよう努力していきます。(3年生)

私は今回初めてセミナーに参加させていただきましたが、普段の講義では聴くことができない講義を聴くことができただけでなく、全国の医大生や大学院生の方と討論をしようことができ、良い影響を受けることが出来たように感じました。

サマーセミナーへ行く前は社会医学とは何かと問われてもあいまいに返答することしかできませんでしたが、セミナーを受けて、“社会医学”とは基礎医学と臨床医学の架橋であると同時に、予防医学や公衆衛生、疫学などへの人々のニーズに対してどのようにアプローチすることができるのかを考える学問、つまり国際社会全体が安心して生活を営むことが出来るような環境を、医療技術や知識を導入して整えようとする学問であると考えようになりました。

この3日間で知り合うことができた仲間たちを見習い、より勉学に努めたいと思います。(3年生)

公衆衛生学講座の大学院生として日々過ごしているため、社会医学とは何か、その役割は何なのかという根本的なところにあまり疑問を持たず、自分なりに理解できていると感じていました。しかし、講師の先生方の多岐にわたる分野の講義や、様々な学年、立場の方々とのディスカッションを通じて、“社会医学”が非常に広い分野であり、様々な学問分野に関わっているということ、そして“社会”という要素を含んでいるからこそ、より複雑な問題と向き合わなくてはならないということを実感しました。今後は自分の研究分野と関わる機会が増えてきますが、常に広い視野で考えることを心がけていきたいと考えています。(大学院生)

初めての社会医学サマーセミナーで、私はとても充実した時間を過ごすことができた。何より良かったのは、他大学の学生と接し、意見を交わすことができたことだ。それはやはり、先生方が私たちにグループワークという時間を与えてくれたからだと思う。普段何気なく過ごしている中では気づくことのできないような議題を与えていただき、限られた時間の中で頭をフル回転させて意見を出し合い、様々なことを学び、感じる事ができた。一緒に3日間を過ごした皆さん、そして私達にこのような学びの場を与えてくださりとても親切にして下さった先生方に感謝しています。(3年生)